

☆関の念仏舟保存会（吉田高志会長）

○結成時期（開始時期）

関の念仏舟は天明2（1782）年の海難事故の犠牲者を慰めるために行われるようになったと伝えられています。

○活動内容と今後について

現在は、毎年8月20日に新たに亡くなった人を供養するため行われています。

長さ2メートルほどの木造の念仏舟に乗せるため、新たに亡くなった人や住職の人形を半紙で作ります。

当日の夕方、浄安寺において念仏舟に人形とローソクを立て花を積み、住職が法要を執り行います。

その後、念仏舟をリヤカーに乗せ太鼓と鉦の囃子で区内を練り歩き船揚げ場まで運行します。

船揚げ場では漁船に念仏舟と灯籠を積み込み住民に見送られ沖に出た後、住職が経を唱え乗り組んだ人たちにより念仏舟と灯籠を海に流します。

近年は、コロナ禍等の影響もあり、念仏舟の運航は浄安寺から船揚げ場までとなっています。

これからも昔から伝承されている関地区のお盆の行事を後世に伝えていきたいと考えています。



念仏舟に人形とローソクを立て、花を積む



太鼓と鉦の囃子で念仏舟を運行



住職の読経とともに念仏舟・灯籠を海へ流し、亡くなった人の供養をする

